

ぼくたちの百年の杜プロジェクト

私は昨年、食料も着る物も住む場所でさえ不自由だった時代のことを知る機会に恵まれました。

1945年7月10日未明、今でこそ“杜の都”と謳われる仙台の空は、123機のB-29戦略爆撃機による空爆によって真っ赤に染まりました。一夜にして焦土と化した仙台の街は、くすぶる煙の先に仙台駅から遠く広瀬川までも見通せたと聞きました。



毎日新聞社「一億人の昭和史 日本占領2」Wikiより

終戦を迎え、多くの人が明日への希望も見出せない中、仙台の復興を願った人々が手を取り合い、砂埃の舞う青葉通りにケヤキを植栽したのは半世紀前のこと。

太平洋戦争から63年、人間の持つ一番大きな時間の単位である100年のうち、その半分を過ぎました。その身で戦争を体験し、生の声を聞くには限界の時期に来ています。

2008年1月28日、地下鉄交通網整備のため青葉通りにある223本のケヤキのうち、27本の伐採が始まりました。多くの人が見守る中、次々にケヤキが切り倒されてゆきました。計画では、工事が完了する7年後、新しいケヤキが新しい仙台の街並みを作り出す予定です。



青葉通りで最初に伐られたケヤキ

ぼくたちは幸いにして、50年前のことを知らずに暮らせています。そしてこの先の50年後、これからの子供たちが作る世界を見ることはないでしょう。スタートの号砲も知らず、ゴールのテープを切ることもありません。でも、伐採されたケヤキが、何か大切な機会をもたらしてくれたようにも思います。

願わくは今ある幸せの礎、未来を生きるぼくたちへ向けた先人の想いの詰まった櫟（ケヤキ）を櫟（たすき）にして、この先の50年後に届けたいと思いました。

“形あるからこそ伝えられる形の無いもの”を大切に走ってみたい。

“ぼくたちの百年の杜プロジェクト”は、今を精一杯生き、自己の存在を考え、未来に向かって進む**誰もが様々な形で参加できるプロジェクト**です。

ぼくたちの百年の杜プロジェクト 事務局 鈴木 寿幸
仙台市青葉区本町1丁目12番1 電話090-2360-5000